

令和3年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和高等学校）

（学校番号 s 4 7）

目指す学校像	中高一貫校として特色ある取組を進めるとともに、高いレベルの教育活動を積極的に展開し、明るく活力があり、高い志をもって輝き続ける生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 中高一貫校の特性を活かした質の高い学びを展開する。 2 「文武両道」の理念に立ち、調和の取れた教育活動を進めるとともに、第1志望の進路を実現する。 3 国際理解教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価（2月1日現在）	
年 度 目 標	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	中高一貫校の特性を活かした多様な教育活動を進め、内進生と高入生の切磋琢磨により進学実績も向上している。さらに中高一貫校としての特色化を進め、他の一貫校との差別化を図る必要がある。新学習指導要領や高大接続改革等を踏まえ、主体的な学びや英語4技能の向上への取組を着実に進める。また、ICT活用やSTEAMS教育等、質の高い学びを一層充実させる必要がある。	・中高一貫校の特性を活かした指導の充実 ・中高連携した授業の充実 ・新学習指導要領や高大接続改革、社会の状況を踏まえた多様な学習の在り方の検討。 ・教員の指導力向上と授業改善による質の高い学びの充実。	①中高合同教育活動を充実させる。 ②高校教員による中学授業などにより連携の充実を図る。 ③1年生に全員導入したiPadを授業で活用する。また、ICT等を活用した学習支援を活用し在宅学習を支援する。 ④観点別学習評価等、新教育課程実施上の諸課題を検討する。 ⑤AL等による授業改善や大学入試改革に対応した学習指導を実施する。	①評価アンケートでの肯定的回答数(率)。 ②中高連携授業の充実が図られたか。 ③生徒のiPad活用状況。ICT等を活用した学習支援が図られたか。 ④観点別学習評価について内規検討の進捗。 ⑤評価アンケート「授業の満足度」等の肯定的回答数(率)。	①生徒の中高連携に対する肯定的回答率は71.9%で、前年度の67.7%より4.2%増加した。 ②中学校の夏休み補習に高校生の補助参加を試みた。 ③1年生授業担当者の78%がiPadを授業で使ったが、毎週活用していたのはその中の半数程度であった。 ④職員会議内で研修会を行い、観点別学習評価について理解を深めた。 ⑤授業の肯定的回答は92.9%で、前年度から5.1%増加した。	B
2	第1志望を諦めない高い志の育成は定着してきている。「力を伸ばす進学校」をスローガンに、学部活動、学校行事と「文武両道」にバランスの取れた教育活動を展開し成果を上げている。一方、社会の状況を適切に判断し、不安や悩みを抱えた生徒への対応、生徒や保護者の期待に応える計画的で戦略的な学習指導、進路指導を展開する必要がある。また、働き方改革を踏まえ、伝統校としての良さを考慮した行事の見直しなど、より充実した学校生活となるよう改善を図る。	・計画的で戦略的な学習指導、進路指導の実施 ・生徒、保護者と連携した、個に応じた指導の充実 ・働き方改革と部活動や学校行事の奨励と積極的支援 ・市立浦和に相応しい生徒指導、生徒相談の充実	①進路指導部と学年が連携し、計画的で戦略的な学習指導、進路指導を進め、第1志望を諦めさせない指導を進める。 ②個人面談の充実を図り、生徒の意欲を引き出し、生徒や進路関連の的確な情報を提供する。 ③「部活動に係る活動方針」を踏まえ、積極的な活動支援を行う。 ④挨拶の励行、登下校の安全とマナー、いじめ防止、SNSの安全な利用等、生徒の社会性の向上を図る。 ⑤柔軟な日程調整等、生徒相談の充実を図る。	①共通テスト900点満点受験者数(率)。 ②個人面談を生徒一人につき年3回以上実施できたか。 ③「部活動に係る活動方針」に沿った部活動の実施状況、行事の見直し検討の進捗。 ④評価アンケート「生徒規律に関する項目」の肯定的回答数(率)。 ⑤不安のある生徒の学校生活を支援できたか。	①900点満点受検率は60%で、前年度より9%増加した。 ②担任と副担任が連携を取り、生徒一人当たり年3回以上の個人面談を全学年で実施できた。 ③部活動を市の方針に則って実施できた。体育祭、文化祭、修学旅行を感染症対策と両立して開催できた。 ④規律に関する肯定的回答93.9%、交通安全への意識も99.1%と肯定が多く、学校の生徒指導が機能した。 ⑤定期的に生徒相談委員会を開き情報共有を図るとともに、不安のある生徒をSCに繋ぐことができた。	A
3	国際理解教育は本校の教育の柱として充実させ、特に語学への動機付けで成果が見られる。しかし感染症の拡大により海外への生徒の派遣は難しい状況にある。安心・安全で開かれた学校づくりについては、生徒・保護者との連絡メール(e-pa)とHPを活用して本校からの情報発信、教育活動の発信をしている。土曜公開授業は感染症対策のため当面非公開とするが、HP等により発信し、保護者や受検生が本校を知る機会としていく。学校説明会やその他の地域連携の機会を活用し、本校の教育活動を積極的に発信していく必要がある。	・安全な海外交流の企画等、国際理解教育の更なる推進と、さいたま市の事業等の積極的な活用 ・積極的な学校情報の発信と地域連携の充実 ・生徒募集の充実	①安全な計画に基づき、国際交流事業を推進する。また、SDGsの視点を採り入れ、国際的視野で教育活動を展開する。 ②さいたま市の事業等の活用による国際交流機会の提供。 ③e-pa、HP等で学校の情報を積極的に発信する。 ④地域連携活動を推進する。 ⑤土曜公開授業や学校説明会の内容を充実させる。 ⑥校外学校説明会、中学校訪問、中学校生徒・PTA見学を積極的に受け入れる。	①国際交流事業への参加生徒の満足度と事故のない実施。 ②市事業等への参加生徒数。 ③情報発信数と閲覧件数。 ④地域と連携した取組数。 ⑤学校説明会の参加者数、土曜公開授業の参加者数。 ⑥生徒募集活動の実施数。	①修学旅行における京都の留学生との交流事業は生徒の満足度が大変高かった。「MUHSグローバルセミナー」も充実した活動ができた。 ②市の「最先端イノベーションプログラム」に応募定員を超える生徒が応募した。 ③e-paを使って文書配布や保護者への連絡等、教員からの情報発信が積極的に行われた。HPの「市高ブログ」を毎課業日に継続的に更新した。 ④コミュニティスクール2年目として、1、2学期の学校運営協議会を滞りなく開催できた。 ⑤感染症対策と両立させつつ、1、2年生保護者対象に土曜授業公開を実施できた。学校説明会は予定通りすべての日程を実施できた。	A

学校関係者評価	実施日 令和4年3月11日 学校関係者からの意見・要望・評価等
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教員による中学授業や中学校の夏休み補習に高校生が参加するなどの取組は中高一貫校ならではの、今後も継続して行ってほしい。 ・ICT教育の充実に関しては外部講師の研修等による教職員のスキルアップが急務。教育面だけでなく各分掌の組織運営の改善等にも効果が期待できると考える。 ・iPadを使った授業は多様な意見を交換できる等とてもよい取組だと思う。今後更に活用の幅が広がることを期待する。 ・新学習指導要領を全教員が丁寧に確認し、生徒が更に質の高い学びができるように努めてほしい。 ・進路面は相変わらず素晴らしい結果。生徒が志を高く持ち、第一希望を諦めずに挑戦してしてくれることを期待する。 ・副担任制の導入は先生と生徒の双方に利があったと思う。進路に関する面談では担任と副担、進路指導部が連携をとり今後も生徒が求める情報の提供をお願いしたい。 ・個人面談を一人当たり年3回以上実施していただけるのは保護者として大変ありがたい。 ・生徒の不安や悩みをしっかり対応しているからこそ、安心した学習環境の保障が成り立っているのだと思う。 ・コロナ収束後の部活動本格再開に向けて、教職員のワークバランスを踏まえた活動計画を進めていく時期に来ているのではないかと。 ・縮小でも行事や部活動の実施ができたことは、生徒にとって大きな経験であったと思う。 ・コロナ禍でも柔軟かつ継続性を持って可能な限り国際理解教育を推進されていることに敬意を表したい。 ・国際交流・地域交流ともコロナ禍で変更した部分を元に戻す時の労力は大きなものと考えられる。以前の交流に固執せず、新たな方法でも良い物は導入していくべきと思う。 ・修学旅行や国内行事等で留学生と交流できたことは、生徒達の自信と向上心の高まりにつながったのではないかと。 ・e-paを使用して情報発信が積極的に行われ、保護者も学校の事を確認できてありがたい。 ・市高ブログは、日頃の学校生活の様子が伝わり、見ていて楽しくなる。部活動についても更新間隔が短いので、熱心さが伝わる。 ・開かれた学校づくりの推進は今後も力を入れてほしい。地域との連携は大事と考える。